

機関番号：34304

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20520400

研究課題名（和文） ウイグル語仏典断片の文献学的研究

研究課題名（英文） Uighur Buddhist Fragmentary texts: A Philological Study

研究代表者

庄垣内 正弘 (SHOGAITO MASAHIRO)

京都産業大学・文化学部・教授

研究者番号：60025088

研究成果の概要（和文）：ストックホルム民族学博物館所蔵のウイグル文『阿毘達磨俱舍論』約2000行を英訳し、注釈、語彙、解説を書いた。これに関しては現在出版準備中である。一方でロシア科学アカデミー東洋文献研究所蔵ウイグル語仏典断片のおよそ50点を同定しテキスト化した。その内から『入阿毘達磨論』の注釈書断片類を整理して出版した。また、ベルリンのアジア美術館所蔵品中にウイグル文字音写された「阿含経」を発見し出版した。

研究成果の概要（英文）：Under this research project, the Uighur version of Abhidharmakośabhāṣya preserved in the National Museum of Stockholm is thoroughly studied. I made the transcribed text with English translation, notes, glossary and introduction to the study of the text. They are to be published in a monograph in near future. Also, I identified over fifty Uighur fragmental texts preserved at the Institute of Oriental Manuscripts of the Russian Academy of Sciences. Among them I published the Uighur version of the annotated text of Abhidharmāvatāra-sātra. Furthermore, I published the Chinese Āgama text transcribed in Uighur script preserved at the Museum für Asiatische Kunst in Berlin.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,700,000	510,000	2,210,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：文献言語学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：ウイグル語仏典、文献学、ロシア所蔵、ストックホルム所蔵、阿毘達磨俱舍論  
ウイグル漢字音

## 1. 研究開始当初の背景

19世紀末に本格化する各国の中央アジア  
学術探検は、敦煌、トルファン、クチャ、コ  
ータンなど現在の甘粛省あるいは新疆ウイ  
グル自治区で大量の古語文献を発見し、自国  
に将来する。それら古語文献はサンスクリッ

ト、トカラ語、コータン語、ソグド語、チベ  
ット語、漢語、西夏語、ウイグル語、モンゴ  
ル語など20種の言語で書かれており、100年  
の長きに亘って各方面から研究されてきた。  
しかしなお未整理の文献が大量に残されて  
いる。

ウイグル語文献については、ドイツ、イギリス、フランス、日本などの所蔵品が次々と公表され、その一部はインターネット上でさえ公開されている。研究面でもかなりの発展を遂げ、主だった文献のテキストエディションは既に提出された。しかし、ロシア所蔵品のみは質と量とにおいて他国のものに優るとも劣らないのにその研究は著しく遅れている。

ロシア所蔵ウイグル語文献の研究はまずW.ラドロフによって始められ、ロシア革命までに『観音経』をはじめとする仏典のテキストが精力的に出版された。ラドロフの死後、マローフが彼の研究を引き継ぎ『金光明最勝王経』を出版する。また彼は1950年代の初めまでにまとまった量の俗文書の研究成果も提出する。しかしその後は急激に衰退し、やっと1970年代に入ってL.トゥグーシェワの研究がはじまる。しかし大きな進展はみられなかった。やがて1991年にソ連邦が崩壊し、外国人研究者もロシア所蔵品を扱えるようになる。申請者は当初より古語文献の蒐集機関であるロシア科学アカデミー東方学研究所サンクトペテルブルグ支所（現ロシア科学アカデミー東洋文献研究所）でウイグル語文献の調査と研究を許され、かなりの量のウイグル語仏典断片についての論文を提出してきた。また共著『ウイグル文Daśakarmaphāvadānamālaの研究』（1998年松香堂）と単著『ロシア所蔵ウイグル語文献の研究』（2003年京都大学）の2冊の単行本も出版した。これらの研究はいずれも中央アジア古語文献に関する総合的研究プロジェクトの一環として科学研究費を受けて行われたものである。このプロジェクトは申請者が研究代表者となり延べ8年間にわたって継続され17年度末に終了した。この間にロシア所蔵ウイグル語文献の全断片をマイクロフィルムに収め、実地調査と複製写真から一応の整理を終えて、カタログを提出した。しかしなお、2500枚の断片類が内容不明のまま残された。それら不明断片のうち俗文献の研究をトゥグーシェワ氏が担当し、申請者が仏教文献の研究を担当することに役割を分担した。実際には2500枚中の90パーセントは仏教文献であり、申請者一人では全断片解明までに10年以上の研究期間が必要である。申請者はまず試みに18年度から2年の計画（基盤研究C）を立てて内容不明断片の同定作業を行ってみた。その

結果『阿毘達磨順正理論』『華嚴経』などの同定、あるいは既に同定できていた『佛祖統紀類本』『瑜伽師地論』などのテキストエディションを行うことができた。だがこの2年の間に、新たに入手できたスウェーデン民族学博物館所蔵のウイグル語仏典の考察、あるいはベルリンコレクションの実地調査などから、不明仏典の同定作業に際してはロシア所蔵品以外の文献も同時に扱うのが効果的であることが解った。その方法は2008年に発行した『ウイグル文アビダルマ論書の研究』（松香堂、18年度成果公開促進費出版）に活かすことができた。

## 2. 研究の目的

本研究の主たる目的は上の1に述べた2年間の試験的研究を受け継いでロシア所蔵ウイグル語不明仏典を同定しテキストエディションを行うことである。研究期間内に行う具体的な事柄は以下のようにまとめることができる。

(1) まず、ロシア所蔵未解明ウイグル語仏典断片の同定作業を行い、同定できた断片のテキストエディションを行う。

(2) スウェーデン国立民族学博物館所蔵ウイグル語文献のうち申請者に研究の許された20葉の大型貝葉仏典（『アビダルマ俱舍論』『入阿毘達磨論』の注釈書）のテキストエディションを行い、漢語ウイグル語対照語彙を作成する。この対照語彙はロシア所蔵不明仏典解明に役立つ。

(3) 不明仏典解明の補助とするために、さらにロシア所蔵ウイグル語仏典と同じあるいは類似の内容を持つ仏典をベルリンコレクションの断片中に探し出す作業を行う。

(4) 上記(1)～(3)で得られたウイグル語語彙を基にウイグル語仏教術語の整理と考察とを行う。

## 3. 研究の方法

ロシア所蔵ウイグル語不明仏典断片を翻訳原典に同定し、テキストエディションを行うために次の研究計画とその方法を用いる。

(1) スウェーデン民族博物館所蔵のウイグル文『阿毘達磨俱舍論』を漢文と対照させながら読み解き、テキストを作成するとともに漢語－ウイグル語対応語彙を抽出する。抽出

された語彙は不明仏典の同定に直接役立つ。

(2) ロシア所蔵仏典断片の同定作業を行い、同定が終わった断片のテキストエディションを行う。

(3) テキストの内容と同一あるいは類似する断片をベルリン所蔵のウイグル語文献中に探し出し、テキストの完成度を高める。

(4) 作成されたテキストをまとめて、単行本作成の準備を行う。

(5) 時間的余裕があればテキストから抽出したウイグル語語彙を基にウイグル語佛教術語の性格について考察する。

上記5点の具体的な研究方法は以下の如くである。

平成20年度

① スウェーデン民族学博物館所蔵のウイグル語仏典のうち16葉は漢文『阿毘達磨俱舍論』からのウイグル語訳で、漢文と完全に対応する。最初の研究としてこのテキストの転写・翻訳およびウイグル語と漢語との対応語彙を提出したい。ウイグル語の仏教術語の研究は遅れているので、このウイグル語-漢語対応語彙が不明仏典(未同定仏典)の同定に役立つ。これらの作業は専ら研究代表者が行うが、ウイグル語-漢語対応語彙表の作成は研究協力者の補助を伴う。

②上の①で提出した語彙を頼りのひとつとしてロシア所蔵仏典の同定作業を始める。以前は文献を読むのにマイクロリーダーから直に読んだり、焼き付けたものを利用したりしていたが、焼き付けたものをさらにスキャナーで読み取ってパソコン画面上で拡大しながら読むのが効率的であることが判明したのでその方法を採用する。手持ちのマイクロフィルムには不鮮明なものも多く含まれているので、それらは研究代表者がロシア科学アカデミー東洋文献研究所へ直接出向いて、デジタルカメラで撮影し直す。なお、スキャナーでの読み取り作業には研究協力者を必要とする。またマイクロフィルムや写真類の整理も研究協力者1名の補助を必要とする。

③中央アジア古文献あるいは佛教に関する国内資料を調査し、また関連書籍を購入することによって当該目的の遂行に役立てる。

平成21年度

①ロシア所蔵ウイグル語仏典の同定作業を

続行する。これまでに同定できたものを含めてそれぞれのテキストエディションを出版する。同定作業は20年度と同じ方法で行う。不鮮明なマイクロフィルムの撮り直しのため研究代表者がロシア科学アカデミー写本研究所へ出向く。スキャナーでの読み取り作業には研究協力者を必要とする。またマイクロフィルムや写真類の整理も研究協力者の補助を必要とする。

これまでに同定を終えた、あるいは20年度以降に同定されるであろう仏典と同じか類似する内容のウイグル語仏典がベルリンコレクションにも存在する可能性は高い。それらをインターネット上で公開されている資料の調査とベルリン・ブランデンブルグ科学アカデミー・トルファン研究所の研究者から直接情報を得ることで見つけ出す作業を行う。ドイツ人研究者との交流およびウイグル文献調査のために同研究所を訪問する。

中央アジア古文献あるいは佛教に関する国内資料を調査し、また関連書籍を購入することによって当該目的の遂行に役立てる。

平成22年度

①過去2年間の研究を整理し出版段階へ研究内容を進展させる。また、不備なところを補うためにロシア科学アカデミー東洋文献研究所へ出張調査をおこなう。

#### 4. 研究成果

当初の主目的であったロシア科学アカデミー東洋文献研究所蔵ウイグル語文献の同定は順調に進み、アビダルマ論や唯識論などおよそ20点の論書断片の同定が済んだ。そのうち『入阿毘達磨論』の注釈書は数葉の小断片がばらばらに配置されていたが、それらを元の位置に整えて、音素転写、和訳、注釈を解説とともに整備し、論文として出版した。また、経典においても『金剛経』『無量寿経』『慈悲道場懺法』など30点近くの新たな同定を行った。他にウイグル漢字音研究に重要な役割をはたすウイグル文字表記漢文の断片も数点が見つかり、そのうちの4点の同定に成功した。また、クロトコフ蒐集の漢文仏典断片に傍注された漢字がウイグル漢字音システムをもつことを新たに発見し論文に拵えてすでに脱稿した。

当初の目的を大きく外れたのはストックホルム民族学博物館所蔵の2000行からなる

ウイグル文『阿毘達磨俱舍論』のテキストエディションに多大の時間と精力を使ったことである。この文献の研究は本来ロシア所蔵断片同定のための補助的な位置にあったが、当該博物館からの早期の出版要求に圧されてテキストエディションの完成を急がざるをえなかった。その結果この論書の音素転写、英訳、注釈、語彙、内容の文献学的解説を完成させることができた。近々単行本として出版する予定である。

ドイツのブランデンブルグ科学アカデミー所蔵のウイグル文献中からロシア蔵と類似するウイグル文字表記漢文発見し、それを「阿含経」に同定して出版した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

① Shogaito, M.: A Chinese Agama text written in Uighur Script, In: Matthias Kappler, Mark Kirchner and Peter Zieme (eds.), *Trans-Turkic Studies. Festschrift in Honour of Marcel Erdal*, Istanbul, pp.67-77 (one plate on p. 77) 2010 年 (査読有り)

② Shogaito, M.: 「ロシア所蔵のウイグル文『入阿毘達磨論』注釈書断片」 『チュルク諸語における固有と外来に関する総合的調査研究』 CSEL15, pp.81-118. 2009 年 (査読有り)

③ Shogaito, M.: The Fanwangjing 梵網經 (*Brahmajala-sutra*): A Chinese text transcribed in the Uighur script, 『突厥語文学研究—耿世民教授八十華誕記念文集—』中央民族大学出版社 北京, pp.426-434. 2009 年 (査読有り)

④ Shogaito, M.: Uigurskij fragment pod shifrom SI Kr.IV 260 iz cobranija Instituta vostochnykh rukopicej RAN, *Pic'mennye pamjatniki vostoka*, No. 8, pp.177-186. 2008 年 (査読有り)

[学会発表] (計 1 件)

① Shogaito, M.: How deeply Inherited Uighur pronunciation of Chinese (IUPC) rooted in Uighur?

*First International Conference on Ancient Manuscripts and Literatures of the Minorities in China*, 2010 年 10 月 22 日, 中

央民族大学 (北京)

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

庄垣内 正弘 (SHOGAITO MASAHIRO)  
京都産業大学・文化学部・教授  
研究者番号: 60025088

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号:

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号: